

経済学部経済学科通信教育課程

【2024年度大学評価総評】

経済学科通信教育課程における自己点検・評価シートに関し、各点検・評価項目における現状分析は、根拠資料に基づき適正に確認されている。

「社会人の学び直し」への多様なニーズが高まりつつある現代社会において、通信教育の存在意義が低下することはないであろう。日本で最も古い歴史と伝統を誇る当通信教育課程が、レポート添削、スクーリング（面接授業）という典型的な教育手法から、受講生が望むメディアスクーリング（オンラインスクーリング）を中心とした教育体制へと一歩ずつ前進していく取り組みは高く評価できる。また、全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加することは、本通信教育課程の認知度を高める積極的な活動として評価できる。

通信教育課程を有する学部では、常に全日制通学過程との共存を図りながら、すべての基準を検討することになるので二律背反の苦勞が絶えないものと想定される。そうした中で、2023年度中期目標・年度目標達成報告書における点検項目すべてにおいて、A以上の評価が下されたことは自己評価といえども、関係する教職員の努力の賜といえよう。メディア（オンライン）スクーリングへの着実な移行が、本通信教育課程に一層の活性化と充実をもたらすものになると期待したい。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。
-------------------------------------	---------------------------------------

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/philosophy.html https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/ https://www.hosei.ac.jp/application/files/8817/1149/9916/2-d-11_.pdf https://www.hosei.ac.jp/application/files/1817/1149/9918/2-d-11_17.pdf	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部（学科）において、通信教育部長及び通信教育学務委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部（学科）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/application/files/8817/1149/9916/2-d-11_.pdf	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo/	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/tsukyo/	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学通信教育部学則」第27条（授業科目）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学通信教育部学則」第30条（年間履修単位の上限）に基づき1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③ICTを利用した遠隔授業は自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学通信教育部学則」第32条（既修得単位の認定）に基づき既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学通信教育部学則」第29条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject2024.pdf https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/tsukyo/	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/tsukyo/ https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
「入学者数・在籍者数の推移 2024年4月1日」	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
-------------------------	----

6.1②法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1③科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1④各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑤教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/application/files/8817/1149/9916/2-d-11_.pdf 大学通信教育設置基準の附則3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
【根拠資料】	
通信教育部学生は全国に在籍し、通学課程の学生のように毎日通学し、接触があるわけではない。しかし、スクーリング時なども含め、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会との連携をはかり、問題・相談に対応している。	

基準8 教育研究等環境

部局による自己点検・評価は実施しない

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステナブルに維持して行く。通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	



II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>学生への個別対応を十分に提供していく体制を安定的に維持するために、通信教育課程に専任教員を置くことを検討すべきという2022年度の大学評価委員会教学部会からの検討事案について経済学部経済学科通信教育課程もその必要性を認識するという記載があった点に関して通信教育課程全体の課題として提起したい。経済学部経済学科通信教育課程の自己点検・評価につき、各点検・評価項目における現状は、根拠資料をもとに概ね適正に確認されている。2022年度中期目標・年度目標達成状況は、教授会執行部と質保証委員会によって適切に点検・評価が行われ、教授会にて共有されていることが伺われる。カリキュラムツリーやマップの学生への認知度の向上を目指すという年度目標と目標達成のための取り組みと改善すべき点が適切に記載されていると評価でき、これにより学生の計画的で効果的な履修につながることを期待する。2023年度目標も、2022-2025年度の中期目標を踏まえながら策定されており、2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書の内容と整合性があると判断される。</p>
<p>【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>経済学部経済学科通信教育課程では、経済学部通学課程のカリキュラムと同等の教育課程を、社会人や障がいをもつ学生など、多様な学習ニーズを持つ在籍者に提供していくために、経済学部の専任教員が授業科目を担当し、学生相談室や学生支援室など関連部署とも密に連携をとりながら学修支援に取り組む努力を継続している。</p> <p>自己点検やシラバスの第三者確認、授業改善アンケートの実施、GPAやGPCAなどのデータの共有を含め、カリキュラムの評価や改善に向けた議論を進める土台を固め、こうした基礎データを活用し、生涯教育に焦点をあてた通学課程とはまた違った教育内容や方法（メディアスクーリングの充実等）の検討を継続している。</p> <p>この場合、学生への個別対応の量や質が通学課程以上に要求されることが推測されるため、それを十分に提供していく体制を安定的に維持するためにも、通信教育課程に専任教員を置くことの検討は引き続き今後の課題となっている。</p>

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

<p>4.5①アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>4.5②アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<p>4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を</p>	<p>A（概ね従来通りである又は特に問題ない）</p>
--	--	-----------------------------

適切性の確認や見直しをしていますか。	困難とする要因がある。	
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準 5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準 6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部（学科）内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

Ⅲ 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。	
年度目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。	
達成指標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの導入）	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学生アンケートで要望が多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を継続的に増やしている。
	改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生へのアンケート結果から、通信教育課程について、教授会メンバーの知見はより一層深まっている。
	改善のための提言	通学課程のオンライン授業が定着する中、通信教育課程に対する、教員の参加向上に努められたい。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。	
年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。アセスメント・ポリシーの作成	
達成指標	アセスメント・ポリシーの作成	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2024 年度における初年次教育の検討と情報科学系の通教共通科目の導入に際して、通教課程のカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーの確認、通学課程のカリキュラムマップとの対応関係を、学務委員の方で、再度確認、検討した。その結果の一部を教学・人事政策委員会および教授会で共有を図った。アセスメント・ポリシーは作成済み。
	改善策	現在の通教課程のカリキュラムに、大部分で、現在のカリキュラムマップおよびツリーは、適合していると思われる。引き続き、カリキュラムの見直しを継続する必要がある、それに併せて、カリキュラムマップおよびツリーの更新が継続して行われる必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの点検により、これらに対する知見が深まった。
	改善のための提言	得られた知見を、今後のカリキュラム改革に活かされたい。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。	
年度目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。	
達成指標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学生アンケートで要望が多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を継続的に増やしている。
	改善策	今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。
	質保証委員会による点検・評価	

	所見	学生アンケートの要望から、メディアスクーリング科目の新規開講が、さらに一步前進した。
	改善のための提言	メディアスクーリング科目を、一層充実するとよい。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
年度目標		カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
達成指標		カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	春・秋の新入生学習ガイダンス（教員講演）をオンラインで行った。春、秋ともに、時間の制約があり短い時間であったが、カリキュラムマップの読み方の紹介を通じて、個別科目の大まかな性格付けを確認できることを伝えた。カリキュラムツリーを用いた履修計画の例示までは行えなかった。
	改善策	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援は、新入生学習ガイダンス（教員講演）の拡充で行った。学習ガイダンスの内容のスライドショーのサンプルに、文献引用の仕方、レポート作成の仕方などについて指導内容を盛り込んだ。カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを用いた履修計画の例示も含めるべきと思われる。教員による履修指導に、カリキュラムマップおよびツリーを活用するよう周知がさらに必要と思われる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍を経験することによって、過去のガイダンスの録画を利用するなど、学生の履修支援は充実している。
	改善のための提言	学生のカリキュラムツリー・カリキュラムマップ活用の促進と、カリキュラムの改善を並行して進めるとよい。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		継続的な学習推進。
年度目標		継続的な学習推進。
達成指標		継続的な学習推進。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後にオンラインで実施できた。通教課程での学びについて新入生に理解を深めてもらえたと思われる。
	改善策	新入生学習ガイダンス（教員講演）において、初年次教育の主な内容である文献引用の仕方、レポート、及び論文の作成の仕方に関する指導に加え、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーを用いた履修計画の例示なども含める必要あると思われる。これにより、新入生に、経済学科のカリキュラムの全体像を大まかに把握させ、本人の経済学科での学習に関するイメージに近い履修計画が策定できるとと思われる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍を経験して、実施困難となったステップ式学習ガイダンスに代わって、過去のガイダンス録画等を利用して、継続的な学習推進を実施した。
	改善のための提言	継続的な学習推進のため、臨機応変な支援が必要と思われる。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
年度目標		カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。アセスメント・ポリシーの作成

	達成指標	アセスメント・ポリシーの作成
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学生間でのカリキュラムツリー・マップの認知度が低いため、カリキュラムマップ・ツリーの認知度を上げる必要がある。新入生学習ガイダンス（教員講演）などで部分的にカリキュラムマップの活用を行った。2年生以上の学生に関して、カリキュラムマップ・ツリーの認知度を向上させることは十分でないと思われる。アセスメント・ポリシーは作成済み。
	改善策	新入生学習ガイダンス（教員講演）などで、履修及び履修計画の策定に、カリキュラムマップ・ツリーを網羅的に活用するよう促す。2年生以上に関して、履修などに、カリキュラムマップ・ツリーを活用促し、個別科目のカリキュラム上での大まかな性格を理解できるような工夫が必要と思われる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラムツリー、カリキュラムマップを通じて、学修成果の測定に務めた。
	改善のための提言	学生のカリキュラムツリー、カリキュラムマップ活用の促進と、学習成果の測定に取り組むとよい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
	年度目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
	達成指標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。身体・精神障がい者も多く入学するため、該当者に対する事前相談・面談の流れも構築している。
	改善策	身体・精神障がい者に対する事前相談・面談制度については具体事例を積み重ねることで改善を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	障がい者への事前相談を含め、「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れるべく取り組んだ。
	改善のための提言	さらに多様な学生を広く受け入れるよう努められたい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
	年度目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他2名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
	達成指標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他3名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通教授業編成委員会を活用しながら、通教主任1名と学務委員1名が連携することで通教学務を円滑に回すことができたと思われる。
	改善策	通教主任と学務委員の2名の連携を強め、効率的かつきめ細かな対応を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	通信教育課程主任を1名、学務委員1名、計2名の体制を維持し、コロナ後の新しい学務体制を全うした。
	改善のた	通教主任、学務委員を中心に、できる限り多くの教員の参加向上に努められたい。

	めの提言	
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
	年度目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
	達成指標	通信教育課程専任の教員が不在である問題について検討
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通信学習科目については専任教員が教科担当者となり、組織として通信教育課程の質を維持している。
	改善策	通学課程と通信教育課程のカリキュラムを照らし合わせて教員組織の質を担保できるように努める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	専任教員が通信教育課程の教科担当者となる体制を維持し、教育の質が保たれている。
	改善のための提言	専任教員の参加向上に継続的に努力してほしい。
	評価基準	学生支援
	中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
	年度目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
	達成指標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	身体・精神障がい者や疾病を持った学生が多く在籍しているため、スクーリング時には学生相談・支援室（カウンセラー・精神科医含む）と通教主任、通教部長、教授会執行部と連携し、問題・相談に対応する体制が整えられている。
	改善策	障がい者に対する事前相談制度を維持し、問題点があれば適宜改善していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ後においても、学生相談支援室や通教主任、通教部長と連携し、問題・相談に対応する仕組みを維持している。
	改善のための提言	より多様な学生に対しても臨機応変な支援を続けてほしい。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
	年度目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
	達成指標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの導入）
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加した。また、2023年度前期期間にオンラインスクーリングの常設に向けた課題と実施スケジュールについて検討した。2024年度夏期・冬期スクーリング1群における実施と、卒業論文指導におけるオンラインの活用について決定した。
	改善策	合同入学説明会でのフィードバックをもとに社会人学生のニーズに対して通信教育課程としてどのようなサービスを提供できるのか検討を進める。
	質保証委員会による点検・評価	

所見	全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加し、そこで得た知見を教育に反映している点は評価に値する。
改善のための提言	社会貢献・社会連携としての通信教育をより一層充実させてほしい。
【重点目標】 生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。 【目標を達成するための施策等】 メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの導入）	
【年度目標達成状況総括】 学生アンケートや合同入学説明会などの場で学生からの要望が多かったメディアスクーリングの充実を新規開講科目を継続的に増やすことにより進めており、増加する生涯学習のニーズに対応可能な体制の整備が、コロナ禍の経験で得られた知見も活用して着実に進展している。コロナ禍を経て一層強まった生涯学習のニーズに対応する体制のさらなる整備に引き続き注力していきたい。	

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。
年度目標	過年度の成績分布データや学生アンケートを検討し、学生のニーズの把握に努める。
達成指標	学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
年度目標	カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。
達成指標	学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックを反映し、必要に応じて改善する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実。
年度目標	学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。
達成指標	メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じた学生の履修支援。
年度目標	現状認知度が低いいため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。
達成指標	学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	継続的な学習推進。
年度目標	継続的な学習推進。
達成指標	継続的な学習推進。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
達成指標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。
年度目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員

	とともに通教課程を担当する体制を維持する。
達成指標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他3名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
年度目標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
達成指標	学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他3名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。
年度目標	通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。ここ数年来、専任教員の教科担当者の定年退職が続いているため、これら教科の専任教員担当者の充足に努め、それら科目の開講を維持する。
達成指標	通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。ここ数年来、専任教員の教科担当者の定年退職が続いているため、これら教科の専任教員担当者の充足に努め、それら科目の開講を維持する。
評価基準	学生支援
中期目標	夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。
年度目標	本通信教育課程の入学理由として、生涯学習を挙げる学生もおり、かなり少数ではあるが、生涯学習を目的とした学生も現行のカリキュラムの下で受け入れていると見られる。しかし、生涯学習に適合したカリキュラムが十分ではない。生涯学習への更なるカリキュラムの充実に関して、その関心が教員間で必ずしも高くない。教員間でのこの点に関しての関心をさらに喚起する工夫が必要と思われる。
達成指標	本通信教育課程の入学理由として、生涯学習を挙げる学生もおり、かなり少数ではあるが、生涯学習を目的とした学生も現行のカリキュラムの下で受け入れていると見られる。しかし、生涯学習に適合したカリキュラムが十分ではない。生涯学習への更なるカリキュラムの充実に関して、その関心が教員間で必ずしも高くない。教員間でのこの点に関しての関心をさらに喚起する工夫が必要と思われる。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
年度目標	「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。
達成指標	メディアスクーリングの充実（オンラインスクーリングの導入）
<p>【重点目標】 学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 需要の多い講義に関して、メディア、あるいは、スクーリング、いずれが効果的かを問いながら、最適な講義を設置すべきと考える。</p>	